

川 崎 市 の 哺 乳 類

山 本 祐 治*

1. はじめに

川崎市の哺乳類に関する報告は、三島ら(1978)、峯岸(1985・1976)、吉行ら(1986)等があるが、いずれも、断片的で哺乳類相全体についてまとまった報告は見られない。

今回、川崎市青少年科学館の夏休み理科教室「けものウォッチング」、同自然科学教室「動物の解剖と頭骨標本を作る」が行なわれ、微力ながら協力させて頂いた。この際に行なった哺乳類の分布調査と、その後、市内全域で実施した分布調査により、川崎市に生息する哺乳類の現状を検討した。その結果をここに報告する。

2. 調査方法

ネズミ類については図1に示したように、川崎市現存植生図(1981)を参考に、市内の各行政区を代表する緑地7ヶ所と、多摩川河川敷の3ヶ所、計10ヶ所の調査地点を設定し、採集を行なった。調査は1986年9月から11月にかけて実施した。この時期は、平地のアカネズミ *Apodemus speciosus*、ハタネズミ *Microtus montebelli* 等が秋の繁殖期に入って個体数が増加することが村上(1974)等によって明らかにされている。1回の調査には100個の大塚パンチュー式トラップを5~10m間隔で線状に配置し、2晩にわたってネズミ類を捕殺した。餌はすべてマーガリン付きの生さつまいもを使用した。

その他の哺乳類については、ネズミ類の調査地点での生活痕跡調査と、住民及び学識経験者を対象とした聞き取りを実施した。聞き取りにおいては1980年以降の生息種を対象とした。

3. 調査結果

ネズミ類の採集結果は、表1に示したように、4ヶ所において3種24頭を採集した。

今回の調査と文献により確認された川崎市の哺

乳類は、5目7科16種となった。

川崎市を7つの行政区に多摩川河川敷を加えた8つの地域に分け、各地域別の生息種と確認状況を表2に示した。

以下に、種別の確認状況を述べる。

食虫目 INSECTOVORA

モグラ科 Talpidae

ヒミズ *Urotrichus talpoides*

本種は、我国特産種で本州、四国、九州等に分布する。主として、平地から低山帯の森林に生息し、草原、畑等には少ない。今回の採集調査では、確認できなかったが、麻生区で死体を確認した。

モグラ *Mogera wogora*

本種は、我国特産種で本州、九州等に分布する。川崎市内では、川崎区を除く地域で、抗道、モグラ塚等の痕跡を確認した。本種は、環境の改変に抵抗力の強い種であり、小面積の緑地、芝生等があれば、都市部の公園等でも生息できる。(東京都公害局・1974)

齧歯目 RODENTIA

ネズミ科

ハタネズミ *Microtus montebelli*

本種は、我国の特産種で、本州、九州に分布する。平地の草原等に生息する。今回の調査では、確認されなかったが、登戸付近の多摩川河川敷で採集記録がある。(三島ら・1978)

アカネズミ *Apodemus speciosus*

本種は、我国で最も一般的な野ネズミで、森林から草原まで広く分布する。

*野生動物保護管理事務所

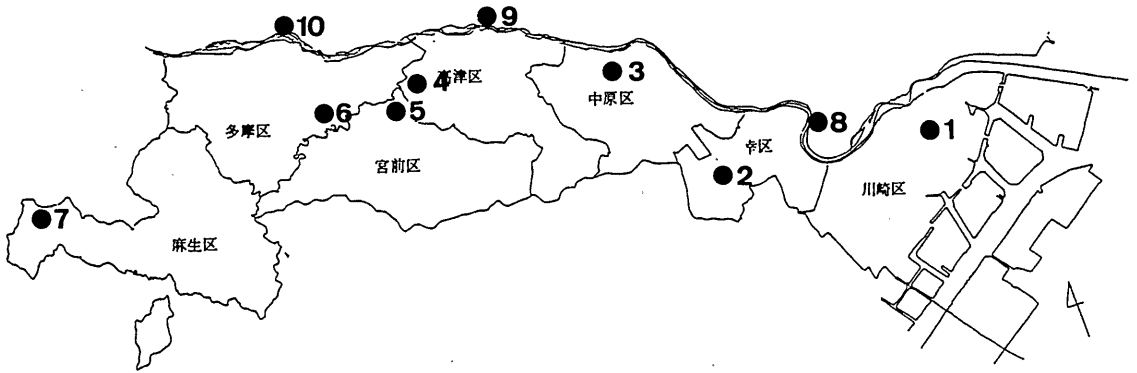


図-1. ネズミ類の調査地点

今回の調査では、多摩区、麻生区、多摩川河川敷の3地域で採集した。本種は、都市近郊の孤立した緑地の場合、その面積が約7ヘクタール以下では、個体群を維持できないと考えられており(高津・1976)。今回の調査でも、ほぼ同様の結果が得られた。

カヤネズミ *Micromys minutus*

本種は、本州、四国、九州等に分布しているがススキ・オギ等の高茎草原の周辺に生息地が限定されているため、分布は飛び石状になっている。神奈川県内でも、本種の生息が確認されている地点は14ヶ所と極めて少なく川崎市内での生息は確認されていなかった。(山口1981・小林ら1986)

今回の調査では、多摩川河川敷で採集、麻生区で巣を確認した。

ハツカネズミ *Mus musculus*

本種は、いわゆる家ネズミと呼ばれる種のうち最も小型の種で、人家や草原に生息している。今回の調査では、多摩川河川敷で採集した。

ドブネズミ *Rattus norvegicus*

本種は、都市部では最も一般的な哺乳類でビル街から住宅地、畑等まで広く分布している。

本種は、次種クマネズミと酷似しており、識別は採集によらないと困難である。今回は、ドブネズミ類を対象とした採集調査は、実施しなかったため、学識経験者に対する聞き取りによって確認し、全地域で確認された。多摩川河川敷では死体も確認した。

クマネズミ *Rattus rattus*

本種は、前種ドブネズミと酷似しており、生息環境もほぼ同じであるが、ドブネズミに比較して尻尾が長いので高層ビル街により適応している。

今回の調査では、幸区、中原区で聞き取りにより確認したが、川崎区、高津区等の都市部での主患の可能性は高いと考えられる。

カプロミス科 Capromyidae

ヌートリア *Nyocastor coypu*

本種は、南アメリカ原産で、日本では毛皮獣として飼育されていた個体が逃げだして野生化した帰化獣である。大河川を中心に生息している。

今回の調査では、多摩川河川敷で聞き取りによって確認した。

翼手目 CHIROPTERA

ヒナコウモリ科 Vespertilionidae.

アブラコウモリ *Pipistrellus abramus*

本種は、ドブネズミ、モグラと共に都市部では最も一般的な哺乳類である。

今回の調査では、全地域で聞き取りにより確認した。川崎市で行なわれたアンケート調査でも全地域で確認されている(峯岸 1985・1986)

ニホンヤマコウモリ *Nyctalus aviator*

本種は、北海道から九州まで広く分布し、樹洞で冬眠する。

今回の調査では、確認されなかったが、多摩区で採集記録がある。(吉行ら 1986)

表一 1 ネズミ類の調査地点と採集結果

| № | 地域 | 調査地点 | 採集結果 |
|----|-----|-----------|---------------|
| 1 | 川崎 | 大師公園 | — |
| 2 | 幸 | 夢見ヶ崎動物公園 | — |
| 3 | 中原 | 等々力緑地 | — |
| 4 | 高津 | 緑ヶ丘霊園 | — |
| 5 | 宮前 | 東高根森林公園 | — |
| 6 | 多摩 | 生田緑地 | A.S. ♂ 1 ♀ 3 |
| 7 | 麻生 | 黒川地区 | A.S. ♂ 6 ♀ 4 |
| 8 | 河川敷 | 川崎競馬練習場周辺 | — |
| 9 | 河川敷 | 二子玉川周辺 | M.mu. ♂ 1 ♀ 1 |
| | | | M.mi ♂ 2 |
| 10 | 河川敷 | 登戸周辺 | M.mu. ♀ 2 |
| | | | M.mi ♂ 2 ♀ 1 |
| | | | A.S. ♂ 1 |

A.S. アカネズミ、M.mu. ハツカネズミ
M.m. カヤネズミ

表一 2 地域別の生息種と確認状況

| № | 種名 | 地域 | | | | | | | | 計 |
|----|---------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|---|
| | | 川崎 | 幸 | 中原 | 高津 | 宮前 | 多摩 | 麻生 | 河川敷 | |
| 1 | ヒミズ | | | | | | | □ | | 1 |
| 2 | モグラ | | △□ | △□ | △□ | △□ | △□ | △□ | △□ | 7 |
| 3 | ハタネズミ | | | | | | | | ○ | 1 |
| 4 | アカネズミ | | | | | | ● | ● | ● | 3 |
| 5 | カヤネズミ | | | | | | | □ | ● | 2 |
| 6 | ハツカネズミ | | | | | | | | ● | 1 |
| 7 | ドブネズミ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △□ | 8 |
| 8 | クマネズミ | | △ | △ | | | | | | 2 |
| 9 | ヌートリア | | | | | | | | △ | 1 |
| 10 | アブラコウモリ | ○□ | ○□ | ○□ | ○□ | ○□ | ○□ | ○□ | ○□ | 8 |
| 11 | ヤマコウモリ | | | | | | ○ | | | 1 |
| 12 | ノウサギ | | | | | | △ | △□○ | | 2 |
| 13 | イタチ | | | | | | △□ | △□○ | △□ | 3 |
| 14 | アナグマ | | | | | | | △ | | 1 |
| 15 | タヌキ | | | | | | ○△ | ○△ | | 2 |
| 16 | キツネ | | | | | | | ○△ | | 1 |
| | 合計 | 2 | 4 | 4 | 3 | 3 | 8 | 11 | 9 | |

●：採集 □：痕跡（死体を含む） △：聞き取り ○：文献

ウサギ目 LAGOMORHA

ウサギ科 Leporidae

ノウサギ *Lepus brachyurus*

本種は、本州、四国、九州に分布し、平地から高山帯まで、森林、草原に広く生息する。

今回の調査では、多摩区で聞き取り、麻生区で聞き取り、痕跡により確認した。

食肉目 CARNIVORA

イタチ科 Mustelidae

イタチ *Mustela sibirica*

本種は、本州、四国、九州に自然分布し、移入により北海道等にも分布する。平地から低山帯にかけ水辺を中心に広く生息する。

今回の調査では、多摩区、麻生区、多摩川河川敷において、聞き取り、痕跡により確認した。多摩区では死体も確認されている。（峯岸 1986）

アナグマ *Meles meles*

本種は、本州、四国、九州に分布し、主として平地から亜高山帯の森林に生息する。

今回の調査では、麻生区で聞き取りにより確認した。

イヌ科 CANIDAE

タヌキ *Nyctereutes procyonoides*

本種は、北海道から九州まで広く分布し、主として平地から低山帯の森林に生息する。

今回の調査では、麻生区、多摩区で聞き取りにより確認した。両地域共、繁殖も確認されている（峯岸 1985、1986）

本種は、近年、市街地での確認が増加しており、本種の食物となる残飯等の増加が、要因と考えられている。（飯村 1986）

キツネ *Vulpes vulpes*

本種は、北海道から九州まで広く分布し、平地から亜高山帯の森林・草原に生息する。

今回の調査では、麻生区で聞き取りにより確認した。麻生区では、死体も確認されている。（峯岸 1986）

4. まとめ

地域別の確認種を見ると、市内の哺乳類相は次の3つの型に大きく分けられる。

大都市型

確認種が2～4種で都市型の種のみからなる地域で川崎区、中原区、幸区、高津区、宮前区が含まれる。

里山型

確認種が8～11種と多く、食肉類を何種か含む地域で多摩区、麻生区が含まれる。

河川敷型

種類は多いが、ネズミ類を中心とした小哺乳類からなり、食肉類はイタチのみの地域で多摩川河川敷が含まれる。

しかし、ネズミ類の分布調査は、不十分であり高津区、宮前区は、都市型の種にアカネズミを加えた大都市型と里山型の間中型になる可能性が高い。

また、麻生区は、最も種類類が多く、タヌキ、キツネ、アナグマと、中型食肉類が3種生息する川崎市内で最も自然度の高い地域である。中型食肉類が3種生息する地域は、神奈川県東部地域でも、他になく（環境庁 1978）、極めて貴重な地域となっている。しかしながらこの地域も宅地開発等で樹林面積の減少は著しく、まとまった樹林を必要とするキツネ・アナグマが姿を消す可能性は高い。今後、この地域の2次林の面積を維持することが、豊かな哺乳類相を保つためには不可欠であり、神奈川県東部に残された貴重な自然を後世に伝えるためにも、何らかの対策を講ずる必要があるのではないだろうか。

5. 参考文献

- 吉行瑞子・木下あけみ：1986 川崎市で発見されたニホンヤマコウモリの冬眠集団、県自然誌資料7
山口佳秀：1981 哺乳類ノート(1) 県自然誌資料2
峯岸秀雄：1986 川崎市域の動物、市民の手による川崎市域自然調査の報告昭和60年度
峯岸秀雄：1986 川崎市域の動物、市民の手による川崎市域自然調査の報告昭和59年度
三島次郎・金森正臣・金井郁夫・久居宣夫：1978 多摩川流域の小哺乳類について、東急 図
飯村武：1986 神奈川県におけるホンダヌキの生態に関する調査 県立自保センター報告3
東京都編：1978 自然環境保全に関する基礎調査報告書（野生哺乳動物）
高津昭三：1976 都市近郊の宅造地内の孤立林における野鼠類の生息状況 哺乳動雑5（5.6）
環境庁編：1978 第2回自然環境保全基礎調査
宮脇昭・藤間熙子・箕輪隆一：1981 川崎市現存植生図 横浜植生学会
小林峯生・小宮山仁：1986 神奈川県における地上棲小型哺乳類の水平及び垂直分布について、県自然誌資料7
村上興正：1974 アカネズミの生長と発育 生態会誌24